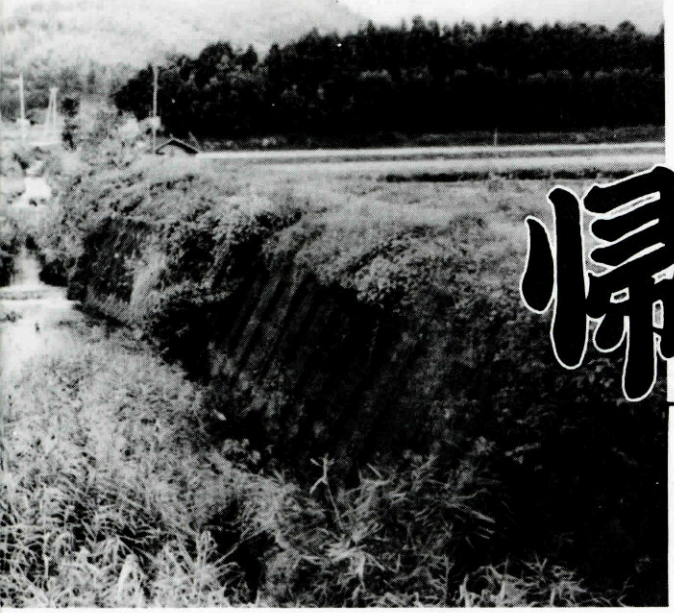


帰って来い「ホタル」さん ふるさとの川を美しく

ふるさとの川に 美しいホタルの光をとの提案

下中小野の平田義祐（元秋田県農業試験場長）さんから、ふるさとの川にホタルをと、町役場へ浄財のご寄附をいただきました。幼い頃のふるさとの川の美しいホタルの光が胸の中に深く去来したことと思います。美しい自然とともに生きること、そこに人が育ち、ふるさとの思い出を胸に画いて立派な社会人として成長していくことを念願し次の世代へと継承することを私どもに示唆したものとして大切に受けとめていかねばなりません。

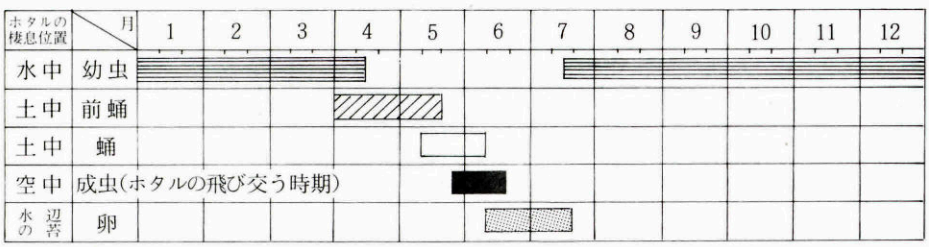
農業試験場専門研究員 黒木先生現地調査から

平田さんのご提案を早速、山口農業試験場に連絡いたし、ご指導をお願いしましたところ、同場長の特別なおはからいで、専門研究員の黒木先生を十月十五日に調査のため、ご派遣をいただきました。本流の落志畑附近、辻並川、浅田川、姫田川等を調査いたしました。流水の汚染度、流量、川土手の樹木、水草等の環境条件そしてホタルの餌の川ニナの生息状況を調査の主体としました。何れの調査地点でも川の環境も良くなり、ホタルの餌となる川ニナの生息も多く、次第にその姿も多くなるのではないかと期待されております。とくに一時環境の悪かった姫田川の調査では二、三のご高齢の方がおられ、この三、四年ホタルが増え始めているとのお話しもあり清流の中に元気に泳ぐ小鮎の姿をみて何んとなく意を強くいたしました。また日を改めて、ホタルの幼虫の調査等をお願いすることにしています。

◎ホタルの簡単な知識をお知らせいたします。

この資料は黒木先生から提供いただきましたものから、主なところを抜粋しました。

◎ 源氏ボタルの一生と生態

ア、4月上旬に幼虫が、雨の夜、水中からでて土にもぐり、蛹の準備をする。
イ、5月中旬から下旬にかけて蛹になる。
ウ、6月上旬に成虫になり、土から出て10日くらい生きて飛び交いその間に交尾し、川辺の苔類に産卵する。
エ、7月から3月にかけて幼虫になるが、この間6回脱皮し、昼は川底の石の下や土にもぐり、夜間でてきて水中のカワニナを食べる。
以上を表で示すと、下の**表－1**のとおりである。

表－1　山口県におけるゲンジボタルの周年経過